

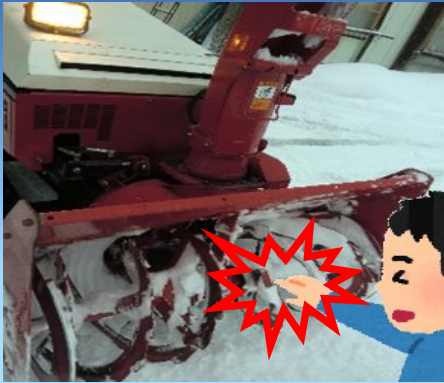
冬季無災害運動

推進中!

～ 目指そう冬季災害ゼロ ～

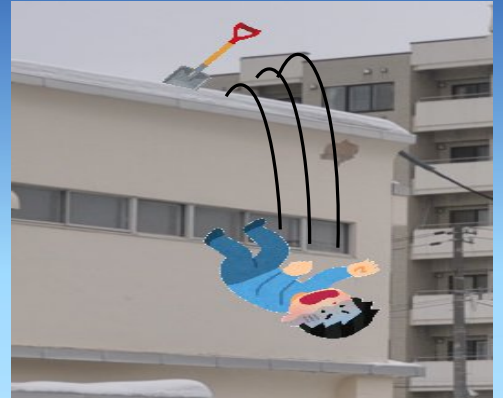
取組
期間

令和7年12月1日
～ 令和8年2月28日



除雪機の回転部(オーガ)との接触

ここに
注意!



屋根除雪中の墜落



③凍結路面等での転倒



凍結路面での交通事故

こんな対策を!

①接触には

- ・点検調整時はエンジンや電源をオフに!
- ・除雪エリアへの立入禁止!

OFF

点検中



転倒には

- ・耐滑性が高い靴の着用を!
- ・滑止めマットなどの使用を!



墜落には

- ・保護帽と墜落制止用器具の使用を!
- ・2名以上で作業を!



④交通事故には

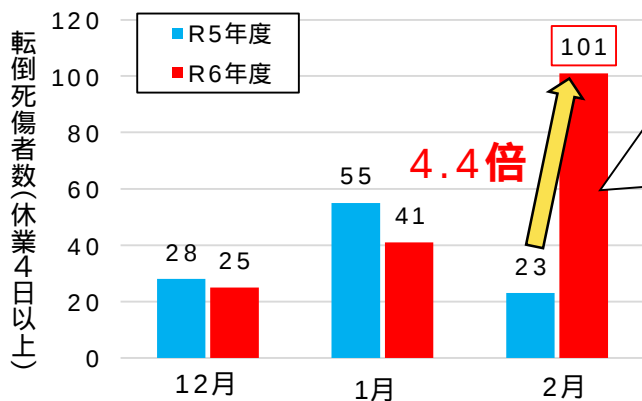
- ・冬用タイヤへの履き替えは早めに!
- ・「急」の付く運転はダメ!



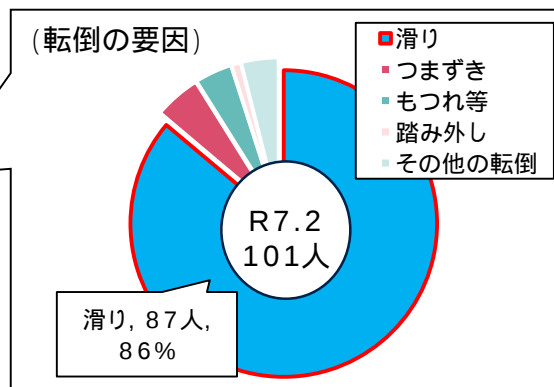
新潟・富山・石川・福井・長野労働局・各労働基準監督署

富山県内では、冬季(12月～2月)に、転倒による労働災害が増加する傾向にあり、特に、強い寒波に見舞われた令和7年2月は、転倒死傷者数が対前年比4.4倍となるなど顕著に増加しました。

冬季特有の転倒リスクを再認識し、転倒災害の防止に向けて必要な対策を講じましょう。



R7.1月及び2月についてはR7.9月時点速報値



1日で20人以上が被災している日も

Q どうして転倒災害が多い？

A: 積雪や凍結地面による「**滑り**」が大きな要因となっています。

最低気温が氷点下を下回る日は、特に滑りによる転倒災害が多くなっています。

対策 気温を確認

- 天気予報で、当日や翌日の気温を確認
- 社内への注意喚起



Q どんな時間に起きている？

A: **午前6時～10時**が多くなっています。

この時間帯は、多くの企業で出勤時間であるほか、**除雪が不十分だったり、周囲が暗く、路面状態の確認が出来ない**ことが多いため、注意が必要です。

対策 路面の見える化

- 除雪等こまめに通路整備
- ライト等の活用を推奨



Q どんなことをしている時？

A: **移動時**に多く発生しています。

屋外が多いですが、**屋内でも濡れた靴のまま移動**して被災しています。
(駐車場 事務所・店舗 作業場内)

対策 時間に余裕を持った行動

- ポケットハンド注意
- 歩きスマホの禁止
- 建物入口にマット
(吸水、防滑、融雪、雪落とし等を併用)



Q どんな人に多い？

A: **60代以上**が6割前後を占めます。

加齢に伴う**身体機能の低下**が影響していると考えられます。骨折(手足、腰、頭等)を伴う場合は、休業が長期化しやすく、職場復帰に時間がかかる場合もあります。

若い人でも、低温環境下で同一姿勢を継続していると、体のこわばりのため、思うように体が動かせない場合があります。

対策 適度なストレッチ

- 転倒予防体操の導入
- 転倒等リスクセルフチェック票の活用
- 健康管理
(骨折のしやすさ等リスクを自覚)



厚生労働省HP